



目次

contents

御遠忌通信	3
アトリエしゃらりん	11
しゃらりんちゃん	12

大阪教区御遠忌お待ち受け法要・事業の参加者数

期日	法要・行事名称	参加人数
3月27日	難波別院会場お待ち受け法要 兼 組門徒会員研修大会	約800人
3月28日	子どもの集い（花まつり子ども大会）	約1000人
4月10日	コーラス大会	約700人
4月15日	親鸞講座（青木新門）	約600人
〃	大谷保育協会関係 幼稚園・保育園児合同参拝	193人
4月17日	全推進員の集い	約400人
4月27日	茨木別院会場お待ち受け法要	約200人
5月 8日	第38回教区同朋大会	2193人
5月15日	天満別院会場お待ち受け法要	約150人
5月20日	親鸞講座（延塚知道）	約500人
〃	青少年ライブの集い ―であ ing KID's '10―	約1500人
5月28日	親鸞講座（伊東憲秀・パネル）	約150人
6月27日	大和大谷別院会場お待ち受け法要	約300人
7月 3日	八尾別院会場お待ち受け法要	約150人
7月 9日	親鸞講座（今井雅晴）	約170人
9月 7日	親鸞講座（長谷正當）	約200人
9月18日	親鸞講座（川村妙慶）	約350人
10月27日	難波別院報恩講結願速夜（併修）	約600人
10月28日	難波別院報恩講結願日中（併修）	約500人
10月31日	教区スポーツ大会	約150人
11月14日	親鸞講座（香山リカ）	約300人

合計参加総数 のべ約 11,110 人

大阪教区

御遠忌通信

各組お待ち受け大会

第3組お待ち受け法要



第3組

スーパー猛暑も終り、やっとしのぎやすくなった9月29日、難波別院同朋会館講堂で「第3組お待ち受け法要」が執り行われました。約120人の参加者があり、男性女性半々の出席でした。組長や、門徒会の役員の方々の進行のもと、門徒会会長の内山氏の調声により同朋奉讃で勤行しました。組長挨拶の後、五辻大阪教務所長に御遠忌テーマについてお話をいただきました。

まだ先のことと思っていた御遠忌があと半年余りに迫り、そこで私た

ちの「お待ち受け」という受け止めを今一度その意義を確かめ、ただの目的に終わってしまわないで、新しい一歩として踏み出す御遠忌になるようにしなければいけない。また「今、いのちがあなたを生きている」というテーマの願いを真摯に受け止めていくことを確かめました。

つづいて、海原はるか・かなたの両氏の漫才があり、出席者皆おおいに笑わせていただきました。

第1部が終わり、第2部の立食パーティーの始まりです。おしゃべりと共に初めて会う御門徒の方々とも親しくなることができました。また、所長や、はるか・かなた両氏もパーティーに出席され、とても華やいだ時を過ごすことができました。

御遠忌に向けて大阪教区の法要や色々なイベントに参加させていただいています。委員の方や役職の方々の大変な様子を伺うと本当に頭が下がります。

第3組の組長さんや、門徒会役員の皆さん、楽しい企画をしてくださってありがとうございます。

(第3組恩樂寺・乙部文子さん)

お待ち受け第8組同朋大会

「親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け大阪教区第8組同朋大会」が、7月14日午後2時から神戸市灘区の璧圓寺にて開催されました。この同朋大会は北摂・有馬・西摂の3ブロックに分かれている第8組が一つの共同行事として取り組んだ大会であり、当日は遠路からも多くの「寺族」・門信徒の方が訪れ、璧圓寺の本堂は満堂となりました。

この大会でゲストとして招かれた



第8組

のは、法話楽団「迦陵頻伽^{かりようびんが}」です。
この楽団は2001年に結成された
音楽法話をする楽団です。

まずピアノの調べにのせて、親しみやすい歌から始まり、音楽の合間に、笑いや涙あるお話があり、時には堂内参集の皆さんと共に歌う場面があり、あつという間に時間は過ぎていきました。親鸞聖人の教えを音楽にのせて、出遇わせていただいた、そんな時間となりました。奏でられた音楽はどれも懐かしさあふれる童謡や唱歌、その懐かしさに思わず心の耳を開き、音楽の合間に話されるお話が、ただ聞いている・聞こえているのではなく、親鸞聖人の教えが心に響いていたように思われます。

集まられた方々は皆笑みを浮かべながら、また聞きたいと言われていました。

公演後、出演者の方と少しお話を
する機会をいただき、これからこの
様な音楽法話を続けていく為には、
新たな方法を見つけていかなければ、
音楽法要は続けにくいとお話
でした。それは、今日歌った唱歌や
童謡は、今の若い世代、子どもたち
は知らない人が多い、従って年を重ね
ても懐かしさは宿らない。若い世

代に向け、Jpopなどを取り入れた
時期もありましたが、なかなかう
まく音楽法話にならないと、これか
らの課題をお話しくださりました。
これは言い換えれば、我々僧侶が教
えをどう伝えていくべきなのかと悩
み抱える問題と共通していると感じ
た瞬間でした。

教区キャラクターのブットンくん
も応援に駆けつけ、小さな子どもた
ちの人気者になっていたことで、多
くの世代層が一同に集まったことを
喜び、いよいよ迫った宗祖御遠忌を
皆様とお迎えするご縁となる大会と
なりました。

(第8組願正寺・戸田直夫さん)

第13組お待ち受け大会

来年お迎えする御遠忌の前に、第
13組におきましては、「宗祖親鸞聖
人750回御遠忌お待ち受け大会」
を組内願得寺を会場とし、11月10日
午後2時より開催いたしました。

当日は天候に恵まれ、多数の「寺
族」、門徒の方々が足を運ばれ、盛
大に勤めることができました。大会
にあたり、宗務総長の「宗祖として



第13組

の親鸞聖人に遇う」という基本理念
のお言葉が届きましたが、そのこと
は念仏者としての生涯を通し、遇い
続けることだと受け止めさせていた
できました。

第1部では、全員で正信偈をお勤
めし、組内道德寺前住職の入江健明
氏による熱のこもった「親鸞聖人ご
一代記」の記念法話をいただき、具
体化された親鸞聖人のみ教えと、そ
の人間像を今一度確認させていただ
きました。

第2部では、第20組専入寺住職の
本多恭盟氏方々8名の、邦楽器によ

る仏教讃歌演奏を披露していただ
き、尺八・琴・鳳笙・歌での親しみ
深い「みほとけ」「恩徳讃」等を45
分間に渡り、聞かせていただきました。
その音色と響きは、静寂した堂
内に響きわたり、この度のお待ち受
け大会を厳粛に盛りたてていただき
ました。

書籍・物品販売もあり、ブットン
くんも会場を盛り上げてくれました。
た。

この度のお待ち受け大会は、来年
の御遠忌に向けた大切な機縁であ
り、2013年にお迎えする「大阪
教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌」
へと受け継がれてゆくことでしょ
う。(第13組浄圓寺・山田武司さん)

第16組お待ち受け法要

さる10月6日、「第16組宗祖親鸞
聖人750回御遠忌お待ち受け法要
及び同朋大会」が八尾別院大信寺に
於いて、157人の参詣者と共に開
催されました。

三嶋勝美門徒会長が開会の辞を述
べられた後、エレクトーンの伴奏に
よる真宗宗歌斉唱、その後池田大興

組長の挨拶、並びに宗務総長からのメッセージの代読がなされました。続いて、御遠忌テーマソング「今、いのちに目覚めるとき」を、藤澤敦子副組長指揮のもと、坊守、門徒会組推協の有志で合唱されました。

第1部のお待ち受け法要は、「三帰依」の合唱、正信偈草四句目下、讃歌「四弘誓願」、念仏和讃（同朋奉讃式）が厳かに勤められました。

第2部の同朋大会は讃歌「光はみちて」を藤澤敦子副組長の指揮で坊守他有志の皆様で合唱されました。その後、真城義磨氏（大谷中・高等

学校長）に「本音と本願」の演題で講演をいただきました。

中世は神が中心、歴史と共に人間が中心になり、現在は経済が中心であり、人間はその下で「人材」として扱われている。あらゆる事が数字で評価されるようになり、争いの多い自己中心の世の中である。しかし、人は皆平等に生かし合う事ができると、本願念仏に出遇うことの大切さをわかりやすく例を上げて説明していただき、有意義な90分でした。全員が咳きひとつせず真剣に拝聴しておりました。聞法することの意義を改めて深く感じた事でした。

最後に「恩徳讃Ⅱ」を合唱しながら、お待ち受け法要及び同朋大会はつつがなく終了いたしました。

（第16組組推協会長・辻田清輝さん）

第21組お待ち受け 夏期仏教講座

7月24日、堺市民会館大ホールにて第21組のお待ち受け法要が、「伝える」をテーマに、第30回夏季仏教講座をかねて実施されました。

次の世代に何をどう伝えていくの

かを示唆してくださる講師を探しました。昼は、佐賀枝夏文氏（大谷大学教授）、「人生のものがたり―悲しみやつらい体験から見えてくるもの―」夜は、中谷剛氏（アウシュヴィッツ・ミュージアム公式ガイド）、「アウシュヴィッツの歴史伝達―ヨーロッパの挑戦―」。

夜の部の動員が心配でした。そこで、身近な「堺大空襲」を学習。歴史伝達者中谷剛氏の本を配布して研修。それぞれがご門徒、ご縁のある人々や組織や新聞社に、チラシ配布などで広く聴講をよびかけました。二社の新聞社が記事にしてくれました。

また大阪教区御遠忌ブログに掲載。「現代でも起こりうる人間の心の弱さを見つめ続ける中谷さんのお話は、ぜひ多くの方に聞いていただきたい」というコメントもいただきました。

当日は猛暑の中、昼は約1000人、夜は500人が聴講しました。

中谷氏の「よそもの」体験からのアウシュヴィッツとの出会い、負の歴史にかかわった人々の心境の中に背景と原因があることを知る意義。最近20歳前後の若い見学者が急増し、昨年は65%をしめ、言語・民



第21組

族・宗教などの異なる者がどう共存していくかを考える場として今アウシュヴィッツが存在する……という話に、多くの方々は見方を新たにしました。

「伝達」は、当事者の体験を通して、ことば、うた、ふるまい、ふれあい、で地味に伝えられています。そこに気づいた私たちは身近な今の問題に置きかえて「考え」、「行動」、繰り返しすることの大切さを知らされたお待ち受けでした。

（第21組光浄寺・北畠顕信さん）

教区スポーツ大会

さる10月31日、大阪大谷大学第一体育館にて教区スポーツ大会が行われました。参加者は120人、その

他たくさんの方々にご来場いただきました。

競技はドッジボールを行い、試合



スポーツ大会・決勝戦

と試合の間には応援に駆けつけてくれた子どもたちが参加できる「玉入れ」「しっぽ取り」も行い、会場全体が終始盛り上がりつつありました。

ユニフォームを作って参加しているチーム、小学生から年配の方までいるチームなど、全16チームの白熱した大会となりました。

(編集委員・吉内)

教区スポーツ大会(ドッジボール大会)は宗祖親鸞

聖人の750回御遠忌をきっかけに、青少幼年教化における課題の「希薄な人と人とのつながり」また「若い世代における宗教ばなれ」これらからの回復・改善をめざし、各寺院

親鸞講座

第4回 今井雅晴氏

7月9日 難波別院会場

御遠忌お待ち受け事業「親鸞講座」が難波別院同朋会館講堂で開催され



親鸞講座・今井雅晴氏

のこども会や各組青年部、そして、教区青少年四団体のさらなる発展を願って開催いたしました。

(第17組徳因寺 稲垣洋信さん)

ました。第4回目となる当講座の講師は、筑波大学名誉教授の今井雅晴氏。「親鸞・恵信尼と鎌倉時代の夫婦」という題で講演され、鎌倉時代の習俗、歴史的背景をわかりやすくお話しいただきました。集まった170人の聴講者の中には、時折ノートにメモを取る人もおり、みなさんお話を聞いておられました。

第5回 長谷正當氏

9月7日 難波別院会場

9月7日、同朋会館講堂において、第5回親鸞講座が開催されました。長谷正當氏(前大谷大学教授が、『自己とは何ぞや』という問いをめぐって』と題して、清沢満之の自己

への問いと親鸞の機の深信について講演されました。

「自己とは何ぞや」という問いは、古来、哲学や宗教の中心を占めてきました。清沢満之が、自己を、万物との関わりから成り立つ宿業的存在であると捉えたことは、まさに、そんな自己をありのままに受け止め、信じて生きることを「機の深信」とした、親鸞の言葉と共鳴していることを、改めて学ばせていただきました。



親鸞講座・長谷正當氏



親鸞講座・川村妙慶氏

第6回 川村妙慶氏

9月18日 兵庫・三田会場

さる9月18日、兵庫県の三田市総合文化ホール「郷の音」ホールにて第6回親鸞講座が開催されました。

「自己とは」という、永遠に問い続けられるであろう深いテーマに、200名の参加者は、熱心に耳を傾けておられました。(編集委員・藤林)

講師に川村妙慶氏(真宗大谷派僧侶・アナウンサー)を迎え、「人はなぜ悩むのか」と題された講演には、350人を超える聴衆が集まりました。

講演では「悩む」ことについてご自身の体験をおりまぜながら話され、聴講者からは「話がわかりやすくてよかったです」「いい話を聞かせてもらいました。来て良かったです」といった声が聞かれました。

講演後、会場出口にて急遽サイン会が開かれ、氏の著作を手にした人で長い列ができました。

第7回 香山リカ氏

11月14日 難波別院会場

先生は良く通る優しい声で、「現代の若者は「自己実現」への欲求の高さから理想と違う自分を強く卑下し、その一方で平凡を嫌います。特別の自分を、私にしかできないものを求めているのですね。でも、私が知っている有名な特別と呼ばれる人の多くも悩んでいます。特別であることも又、悩みの種となるのです。そもそも大人が若者に特別になるこ

とを望んでいませんか？ 大学の単位はテスト60点で取れますよ。完璧な必要はないのです。まず少しでも出来た自分を認めてみませんか」とのお話をされました。

そして付け加えられたのは「老いているんがでできなくなるのは当たり前。アンチエイジングは生き物として傲慢です」の一言。そこには老病死を生きる私自身を、おおらかに引き受ける眼が感じられました。(第21組以速寺 山雄竜磨さん)



親鸞講座・香山リカ氏

各別院お待ち受け法要

大和大谷別院会場 お待ち受け法要

さる6月27日に大和大谷別院を会場とし、お待ち受け法要が勤修されました。



大和大谷別院お待ち受け法要

当日は天候に恵まれ、さらに奈良県下の崇敬区域のみなさんのご協力もあり、出仕者27名・コース22名を含む総勢約300名が参加され、本堂内の様子を投影した研修室も満堂になるほど、たくさんさんの参拝者が集い、盛大な法要となりました。

講演は茨木別院でもお話いただいた宮下晴輝氏（大谷大学教授）から「仏します」という講題で専門分野である仏教学を中心に仏陀と親鸞聖人が歩まれた道を示しながらお話いただきました。

八尾別院会場 お待ち受け法要

さる7月3日に八尾別院を会場とし、お待ち受け法要が勤修されました。

雨が降る中、出仕者19名・コース35名を含む総勢約150名のご参加をいただき、本堂も満堂となりました。

講演は天満別院でもお話をいただいた田代俊孝氏（同朋大学大学院教授）から「ひと・ほとけ・いのち—今、いのちがあなたを生きている—」という講題で、生命倫理的な立場などで実際出遇った事例を紹介しながら本堂の「いのち」に目覚めることの大切さをお話いただきました。

難波別院会場 お待ち受け法要

（兼難波別院報恩講結願速夜・日中）

さる10月27日・28日に大谷暢顕ご門首御親修のもと、難波別院の報恩講の結願速夜と結願日中を大阪教区



八尾別院お待ち受け法要

のお待ち受け法要と併修して勤められました。

27日の結願速夜には、出仕者28名を含む総勢約600名、28日の結願日中には、出仕者15名を含む総勢約500名とたくさんさんの参拝者が集い、両日とも盛大な法要となりました。

また、法要の前後には難波別院主宰の様々な奉賛行事も行われるなど、境内には多くの参拝者で活気に満ちていました。

教区お待ち受けを終えて

昨年の難波別院報恩講において、御門首夫妻御臨席のもと、大阪教区御遠忌テーマ発表セレモニーが開催されました。発表された「いのち輝け！今、いのちがあなたを生きている」という教区御遠忌テーマは、宗派テーマ及び御遠忌基本理念である「宗祖としての親鸞聖人に遇う」を受けて、現代の競争社会に知らず知



難波別院お待ち受け法要

らずに取り込まれ、自分という存在を見失っていることに對する叫びであり、今こそ本願念仏の法に立ち返ろうと呼びかける声であります。

今年の3月より11月までの9カ月間にわたって、各別院でのお待ち受け法要・子どもの集い・コーラス大会・青少年ライブ・スポーツ大会、そして7回の親鸞講座や同朋大会・組門徒会員研修大会・全推進員の集い、さらには保育園児の合同参拝とバラエティに富んだ諸行事が開催され、幼少年から青年・壮年・高齢者と、多数の方々が関わり、参加していただきました。

教区御遠忌テーマの元に行われた、これらの諸行事を通して、人と人との交わり、そして世代を越えた結び付きが深まったと確信しております。

また、これらを通して、人と人の繋がりのなかに「いのち」が躍動していることを感じます。真宗の教えが私たちを光り照らし、一人ひとりがだれとも変わる必要のない、輝く存在であります。その輝きは有縁

の人々を照らし、そして限りなく広がってまいります。私たちはこのことを背景として、共に助け合い、力を結集して、現実的な方途を取らねばなりません。

明年は、宗祖750回御遠忌法要が真宗本廟で厳修されます。教区より1万4千人の方々が団体参拝されます。この勝縁が宗門・教区・各寺院・そして同朋の新たな一歩となり、2013年の大阪教区御遠忌の円成に繋がるように切に願っております。

(御遠忌委員会委員長・

小松 崇さん)



大阪教区では、今年度の全ての法要・事業を「お待ち受け」と位置づけ取り組んできました。

「お待ち受け」は来年度に厳修される「宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要」をお迎えする我々一人ひとりの心構えを再確認するためのものです。真宗門徒の御遠忌に懸ける篤い想いもあり、住職方のひとかたならぬご努力もあって、我々の期待以上のご参加をいただき、大いに盛り上

がったものとなりました。
ご参加いただいた皆様方には厚く御礼申しあげますとともに、来年の御遠忌法要にも必ずご参拝下さいますようお願い申し上げます。

今回の「お待ち受け」は、ゴールであってではありません。来年の御遠忌法要のためにも、2013年の教区御遠忌法要を滞りなく厳修するためにも、今回の「お待ち受け」の反省は十分行う必要があります。各法要・事業に携ってこられた実行委員の皆様方にとって、この反省こそが今後の教区運営において大いなる自信となることと思います。

法要が厳粛であればあるだけ、大会が盛り上がりあがるだけ、内容が問われます。

各法要・事業が御遠忌の基本理念である「宗祖としての親鸞聖人に遇う」にかなったものであったかという問い直してみると、素直に頷けない自分を見出しています。

私たち一人ひとりが「親鸞聖人に何としても出遇いたい」との熱い想いで法要に参加されたかどうか一緒に思い返していただきたいと思います。

(御遠忌委員会副委員長・

内山宗之さん)



<http://www.osaka-goenki.net/>

御遠忌ホームページ 順調に稼働中！

今年3月、新たに開設いたしました大阪教区御遠忌ホームページは、現在おおよそ1日1000人ほどの閲覧者があり、順調にヒット数を伸ばしています。

今回ホームページを製作するにあたり、我々ホームページ実行委員会では、教区事業だけではなく、組・お寺での御遠忌への取り組みも共に

発信していきたいと考えました。そのために各組に「組連絡員」を設けていただき、各組で独自に写真や記事をホームページに掲載できるような仕組みを作りました。

それは御遠忌ホームページの「ブログ」というコーナーでご覧になれます。多くの組から、御遠忌お待ち受け法要などの案内・報告をいただいています。今後は、ご本山への団体参拝、そして教区の御遠忌が控えております。「大阪教区はこんなに多彩な御遠忌事業をしてるんだ」ということを広く内外にアピールするためにも、連絡員のみなさんにもご協力いただいて、引き続き情報提供をしていきたいと思っております。

(御遠忌委員会広報部
ホームページ実行委員会・澤田 見

教区出版物・新刊本のご案内

『うまれてよかったね
—心をほぐすメッセージ—』



このたび『うまれてよかったね』シリーズ第3集を発行いたしました。サブタイトルを「心をほぐすメッセージ」とし、悩みを抱える方や、そのご家族に対してさまざまな視点から、心に届くメッセージを掲載しています。シリーズ第1集・第2集共に大好評頒布中です。ぜひお求めください。
※定価1000円、100部以上のご注文は1割引で頒布します。

『増補 清沢満之語録
—近代の無碍人—』

『清沢満之語録—近代の無碍人—』増補版を発行いたしました。本書は、真宗大谷派における近代教学を確立し、大谷大学の初代学長を務めた清沢満之師の思想や信念が、端的に表現されている言葉を収載しています。初版発行後、全国からご注文いただき、様々な聞法会・学習会でご活用いただいています。
※定価800円、10部以上のご注文は1割引で頒布します。

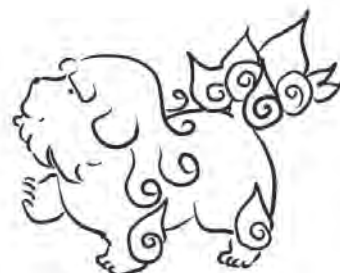
2010年教区基本テーマ

リーフレット

教区出版会議では、毎年、教区基本テーマとサブテーマの周知・浸透のためポスター及びリーフレットを作成しており、このたび年度初めに発行した2010年度教区基本テーマポスターに引き続き、教区基本テーマリーフレットを発行いたしました。

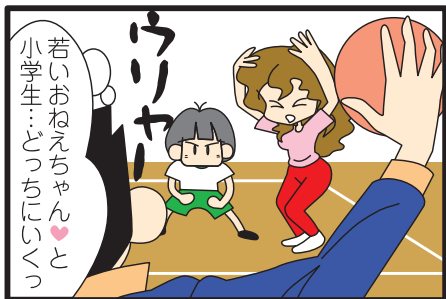
アトリエしゃらりん

画・北川浩三



しゃらりんちゃん

教区スポーツ大会 編



ゆるキャラまつりin彦根



10月23日、24日に開催されたこのイベントは、全国のゆるキャラが集まるお祭りです。本山からは鸛恩くんと蓮ちゃん、あかほんくん、そして我々が大阪教区の人気者ブットンくんが参加しました。

本山と南御堂(大阪教区)のブースは会場となる歩行者天国の入り口にあり、最初に出会えるゆるキャラとしてインパクト大! 会場中央はごったがえしていて、むしろベスト・ポジションでした。

ブットンくんはここでも子どもたちに大人気でした。ブットンくんの絵と「いのち輝け!」のロゴが入った風船は、子どもたちにせがまれて、用意した千個の風船が足りなくなる勢いでした。

各キャラが自己アピールする舞台にブットンくんも登場。コテコテの大阪のノリのパフォーマンスでお遊びを交えながらも、そこは教区の代表のブットンくん、しっかり御遠忌の広報もしてくれましたよ。

ゆるキャラの人気者を決める「ゆるキャラ(R)グランプリ」では、総勢170のキャラクターがある中、携帯サイトでの投票は残念ながら11位でしたが、当日の記名投票ではなんと7位に輝きました。やったね、ブットンくん!

編集後記

◆しゃらりん24号をお届けいたします。前号よりお待ち受け方を

要を紹介し、今号においても親鸞講座をはじめ各組の待ち受けの取り組みを紹介させて頂きました。◆教区のお待ち受け期間としては全企画を終えることができました。しかしすべてが、御遠忌へ向けての待ち受けであり、これからのよいスタートという鐘が鳴り出しました。◆本山の御遠忌、また引き続き教区の御遠忌についても、この大切な機会にこれまで仏法やお寺と縁の無かった方々とも、親鸞聖人を仰いでいける御遠忌でありたいと願います。◆宮城顕先生は「御同朋という言葉は一切衆生、つまりおおよそ人間をみる眼を言い表している言葉であつて、あえていえば、念仏者とは一切衆生を御同朋として見出していく存在。念仏者が御同朋なのではない」と言われています。この御遠忌は私たちの仲間確認の御遠忌ではなく、一切衆生を同朋として見出してゆく御遠忌であることを教えられます。(H)

発行日:2010年12月10日

発行所:真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町4-1-11
TEL06-6251-4720

発行人:五辻信行

編集: 第4組 常樂寺・久世見証
第9組 淨圓寺・難波美千子
第10組 是三寺・北川浩三
第12組 清澤寺・澤田 見
第16組 即得寺・大戸俊彦
第17組 法観寺・廣瀬 俊
第25組 南林寺・藤林容子
第27組 願隨寺・平野圭晋
第27組 信證寺・吉内利彦

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>